

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	和光市児童発達支援センターやまぼうし（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	8年 2月 1日		8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34人	(回答者数) 22件
○従業者評価実施期間	8年 2月 1日		8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 13人
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者アンケートの結果から、お子さんの安心感や事業所の支援に対する満足度について一定の評価を得ていると捉えています。相談がしやすいとの評価も多くいただいています。	保護者の様々な悩みに向き合えるように関係性の構築を大切にしています。	機能訓練の専門職を採用するなどして、さらにスタッフの充実をさせて様々な子どもたちの特性に対して、適切な支援ができる体制を整えたいと考えています。
2	毎日の個別療育の時間を設けており、療育内容についても日々改善を加えています。保護者の皆様から日々の様子から個別療育の結果が出ているとお言葉をいただいています。	子ども達の発達特性に合わせて集中ができる環境を整えるように部屋の内装などの構造化に努めています。	午後の時間にも個別療育の受け入れをするなど、今以上に児童の受け入れ態勢の強化と充実に取り組みたいです。そのための職員の採用と定着、研修の充実にも努めてまいります。
3	法人内の広いネットワークを利用して、事業所単体以上の社会資源をもって子ども達や保護者の方のサポートをしています。	子どもたち一人一人の思いや意欲を大切にしながら、その子の特性に寄り添った支援、活動プログラムを計画し、実施しています。	専門的な視点からの個別療育のプログラムを強化するのみならず、子どもたちが毎日楽しく通いたいと思える活動をたくさん取り入れていきたいです。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子ども建と関わる機会がなかなかないので、他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、保育園、幼稚園などとの交流イベントを継続的に行なうようにしていきます。	職員のモチベーションや施設に通ってくる子ども達の発達特性の多様さに対して、研修機会がまだまだ十分ではないと考えています。	法人内部・外部の講師を招聘して、職員集団としてのスキルアップをはかっていきたい。専門職についてもこれまで以上に採用に力をいれ、より重層的な支援ができるよう事業所全体としての専門性を高めていきたい。課題や困難に悩んでいる保護者に対しても、適切な助言等ができるよう職員全員が研修を重ねて参ります。
2	職員アンケート・保護者アンケートの結果から家族支援や活動プログラム、マニュアル関係などの周知に課題があると捉えています。情報発信については、SNSなどの活用も検討をしていきたいと思っています。	人手不足の影響もあり、既存の取り組み以外にことになかなか挑戦できてこなかった。今後は採用や業務分担の見直しにより力をいれ、積極的に新しい取り組みができるような体制を整えたいです。	安全計画や避難訓練の報告など、日常の活動以外にも必要な事柄について保護者向けのたよりなどで頻繁に連絡を出せるようにする。保護者会などの機会を定期的にもうけ、情報発信と連携強化に努めるほか、親同士の交流も促進していく。
3	保護者会などのイベントがもっと開催できたらよいと考えています。中核的支援施設としての機能もさらに充実させる必要があると考えています。	職員の高齢化が進んでおり、PC・タブレットの使える職員数が少なくなっています。ICT化が進む中、Word、Excel、PowerPointのPCツールやタブレット等の使える職員に仕事が集中してしまう状況にあります。	他の事業者との連携や、保育園、幼稚園との交流、保護者会の開催など、より地域に開かれた施設にしていきたい。今後、情報交換会や学習会などを積極的にオーガナイズしていく。